

【学校名】 網走市立第二中学校
【活動の名称】 相談したい教職員を選べる「教育相談」
【活用した資源】 教職員全員
【対象学年と活動の時期】 全学年 年1回


(項目ア—観点①居場所づくり)

【活動の概要】  
・生徒が、自分の相談しやすい職員を選んで相談する。

【ねらい】  
・生徒自身が相談しやすい教職員を選び、本音で話すことができる環境をつくる。  
・教職員全体で生徒へ関わることで、全校生徒を見守っていく学校体制をつくることのできる。

【活動の流れ】  
①教育相談期間を7日間設定する。  
②希望調査を実施する。  
③生徒指導部で希望調査を基に教育相談日程を決定する。  
④教育相談を実施する。

<主な相談内容>  
・日常における生徒の様子  
・子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を踏まえた生徒の状況  
・学校及び家庭生活における悩みや心配事

教育相談事前アンケート

1. 2年生のみなさん、いま君たちは「思春期」という時期で、大人になるために様々なことを考えて、自分のことや家族のこと、友だちのことで悩んだりすることがたくさんあると思います。1人で抱えてしまわないように11月17日(木)から29日(火)までの期間で、一人15分程度「教育相談」があります。話す内容は、自分が困っていること、悩んでいること、進路への不安など何でもかまいません。また、その相談したい内容を誰に聞いてほしいか、学年部の先生から選んで、その先生の名前を書いて下さい。(人数にかたまりが出た場合は、希望にそえないことがあります)  
\*養護の先生やスクールカウンセラー、事務職員、用務員さんでも大丈夫です。

相談したい方  
① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_

話したいこと… \_\_\_\_\_

困っていること、悩み、不安などについて、相談相手を第3希望まで選べます。

教育相談日程

担当	11月17日(木)		
【場所】	14:40	14:55	15:10
担当名	2-A	2-A	1-A
【1-A】	生徒名	生徒名	
担当名	1-A	1-A	
【1-B】	生徒名	生徒名	

普段、授業でしか接することのない教員に相談しています。




生徒が相談しやすい環境づくりにも配慮します。



相談後、職員同士で情報交流をしています。

【本活動における成果等(留意点含む)】  
・全教職員で実施したことで、複数の教職員で生徒を見守る体制が整備できた。生徒の情報について、学年を超えて伝え合う様子が多く見られ、教職員の連帯感の醸成につながった。  
・学校行事の後など、人間関係が築かれる時期に実施することが望ましい。

【学校名】清水町立清水中学校
【活動の名称】 自分たちができる地域貢献 『被災した自分たちの町に元気を取り戻すボランティア活動』
【活用した資源】災害救援活動
【対象学年と活動の時期】全校生徒 9月


(項目ウ—観点2 絆づくり)

【活動の概要】  
・台風10号によって甚大な被害を受け、元気・活気を亡くした清水町のために、自分たちができるボランティア活動に取り組むことで町に明るさを取り戻す。

【ねらい】  
・断水によって不便を強いられている町民や高齢者のために、給水所での給水活動の支援を行う。  
・浸水被害にあった家屋、市街地の清掃活動にあたる。  
・以上の活動を通して、疲弊した町に笑顔と明るさを届け、町の人々に明日への活力を見出してもらう場面とする。

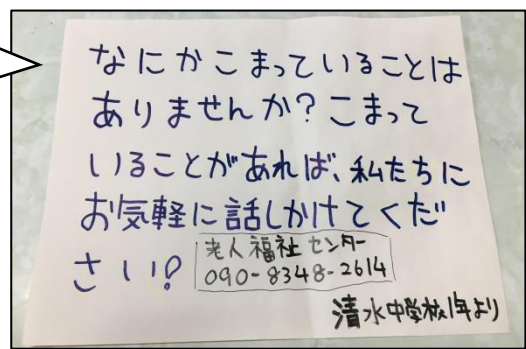
【活動の流れ】  
①災害支援センターに中学生ができる活動がないか確認し、作業内容を把握する。  
②全校集会を開き、今回の活動についての趣旨を伝え、学年ごとに作業内容を振り分ける。  
・1、2年生…浸水家屋の汚泥撤去作業、および市街地の清掃活動  
・3年生…給水所での給水活動支援、および高齢者宅への水の宅配作業手伝い  
③学年ごとに徒歩で活動場所へ移動して作業に従事(9:00~12:00)

ポリタンクを持って給水所に来る方の家まで水を届けました。みなさんから笑顔で「ありがとうね。」と感謝の言葉をいただきました。なんだか、心がほっこりした気がしました。



町のいたるところが汚泥で埋まっていました。庭先に溜まった水分を含んでいて重たい汚泥をみんなで取り除きました。少しきれいになった町をみてうれしくなりました。

町内の老人福祉センターにはこんな張り紙が。子どもたちが自分たちができることを自分たちで見つけようと行動に移せることが素敵ですね。



今回のボランティア活動を通して、子どもたちの中で人を思いやる気持ちが確実に育ちました。

【本活動における成果等(留意点含む)】  
・自分たちも被災し厳しい状況にある中でもさらに苦しんでいる人々がいることに気づき、弱い立場の人々のために労を惜しまず活動に取り組む心を育むきっかけとなった。  
・給水所に訪れる町内のみなさんとの触れ合いを通して、町に活気を取り戻す手助けができた。  
・自分たちができる些細な活動でも、心から笑顔で歓迎してくれる町民のみなさんの反応を通して、自分達でも人のために役立つことができるのだという自己有用感を高める機会となった。



平成28年度いじめ未然防止プログラム「主な活動（概要）」

【学校名】 標茶町立標茶中学校
【活動の名称】 体育祭での縦割り団活動
【活用した資源】 団活動
【対象学年と活動の時期】 全学年 6月～7月


(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】

- ・上級生が下級生に種目練習の指導をするといった縦割りによる活動を取り入れる。

【ねらい】

- ・縦割りの活動を取り入れることにより、生徒の自主性・主体性の伸長を図る。
- ・上級生が下級生に種目練習の方法などを教えることを通して、リーダー性を養うとともに、下級生を思いやる心情を育む。

【活動の流れ】

- ①学年縦割りでA団・B団を編成し、絆を強めるために生徒会が企画した「ピンポン球リレー」を実施
- ②各学級において、団長（副団長）や種目リーダー等を選出する。
- ③団ごと（A団・B団）において、結団式を行う。

- 結団式の内容
1. 始めの挨拶
  2. 各学年の決意表明
  3. 団長の挨拶
  4. 団対抗種目・各リーダー紹介
  5. 全員で円陣
  6. 終わりの挨拶



〈A団・B団の応援旗〉

- ④団長・副団長を中心に、応援の仕方（どんな言葉で応援するか、振り付けをどうするか）を考える。
- ⑤種目リーダー中心に、団種目の練習方法を考える。
- ⑥種目練習の合間などを使って、応援の仕方を種目リーダーが団のメンバーに教え、メンバー同士で練習する。
- ⑦団種目練習の時間の冒頭で、種目リーダーが練習の仕方を説明し、練習を行う。
- ⑧体育祭練習や総練習の中でも、随時、教えてもらった方法で味方の応援を行う。
- ⑨体育祭当日、出番のない生徒は適宜応援をする。
- ⑩体育祭の翌々日、体育祭の反省を行う。
- ⑪団ごとに解団式を行う。



〈結団式〉

- 解団式の内容
1. 始めの挨拶
  2. 各学年の感想の発表
  3. 団体校種目・各リーダーの挨拶
  4. 団長の挨拶
  5. 終わりの挨拶



〈全員で円陣〉

〔取組内容を振り返って〕

- ・生徒が自己の役割や責任を自覚して、協力して行動する態度を育むことができた。
- ・生徒の居場所づくりや自己有用感を育む機会の充実を図ることができた。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・上級生は下級生に対して思いやりの気持ちを持ち、上級生が下級生に練習方法などを教える様子を見て、下級生は上級生へのあこがれの気持ちをもつことができた。
- ・普段、あまり関わりのない生徒同士が交流することで、コミュニケーション能力の高まりが見られるようになった。
- ・今後も生徒会を中心とした主体的な取組を充実させるとともに、「子ども理解支援ツール ほっと」の分析を基にしたコミュニケーション能力を高める取組を計画的に推進する必要がある。

【学校名】根室市立光洋中学校
【活動の名称】 全校構成的グループエンカウンター（光中ゲーム）
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全学年 月1回


（項目アー観点②絆づくり）

【活動の概要】  
 ・全校集会の最後の20分を使い、生徒（主に生徒会）が企画した構成的グループエンカウンターを行う。  
 ※毎月1回全校集会を行っている。

【ねらい】  
 ・全校生徒で行う構成的グループエンカウンターを通して、コミュニケーション能力の基礎を養い、人間関係づくりの力を育む。

【活動の流れ】  
 ◎準備  
 ①全校集会前に生徒会執行部で話し合い、「光中ゲーム」の内容を決定する。  
 ②当日の進行の役割分担やルール決めを行い、リハーサルをする。  
 ③朝の会でゲームの目的と、概要の説明、必要に応じてチーム決めを行う。  
 ④ゲームの内容や目的をポスターで宣伝する。  
 ◎集会時  
 ⑤生徒会執行部が説明及びデモンストレーションを行った後、全校生徒で構成的グループエンカウンターを行う。  
 ◎反省  
 ⑥実施後、参加した感想を集約し、その結果を生徒会便りで紹介する。



執行部がデモンストレーション



学年の枠をこえたチーム編成



3年生を中心に作戦タイム



ゲームの様子①（互いに手をつないで人間知恵の輪をつくる様子）



ゲームの様子②（異学年同士が組みになるよう配慮）

＜生徒の感想＞  
 ・いろいろな人と交流し、関係を深めることができた。 ・みんな笑いながらできていたので楽しかった。  
 ・全校で楽しむことができ、他の学年と交流を深めることができた。  
 ・みんなで話し合いながらできたので、先輩との仲がより深まった。  
 ・3年生がリーダーとなってみんなをまとめてくれたので、スムーズにできた。

＜留意点＞  
 ・全校生徒が学年や学級をこえて楽しめるようなゲームを選定するよう促す。  
 ・ルールの説明は短時間で簡潔にできるように促す。  
 ・デモンストレーションの練習は入念に行う。  
 ・全教員にもゲームの内容を周知し、学校全体の取組として行う。

【本活動における成果等（留意点含む）】  
 ・学年の枠をこえた活動を通して、互いに声がかげやすくなるなど、学校全体の雰囲気明るくなった。  
 ・学級対抗の活動を通して、学級の間人間関係が深まり、様々な教育活動に生かすことができるようになった。  
 ・毎月、継続的に集会を行うことにより、生徒会執行部の生徒を中心とした絆づくりが深まり、他の生徒会活動にも全校生徒が一層協力して取り組むことにつながった。